

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	国語表現	
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライ）		単位数	2
使用教科書	国語表現		出版社	大修館書店
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。 			
	項目	趣 旨	評価方法	
知 識	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解することができる。 ・言葉の特徴や使い方について理解を深め、語彙を豊かにし、適切に使うことができる。 ・言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・授業ファイル ・小テスト ・定期考査 ・課題 		
技 能	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」について、話題の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成、表現・解釈、意見の共有、話し合い活動を適切に行うことができる。 ・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・授業ファイル ・定期考査 ・課題 		
思 考 判 断 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」について、話題の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。 ・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・授業ファイル ・定期考査 ・課題 		
主体的に 学習に 取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深めようとする。 ・読書に親しみ、自己を向上させようとする。 ・我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動状況 ・授業ファイル ・課題 		
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス				
<ul style="list-style-type: none"> ・指示をよく聞き、主体的に「読む」、「書く」、「話す・聞く」。 ・不明な箇所や疑問点は、積極的に質問する。 ・教材を管理する。紛失しない。 ・ワークを空欄のままにすることがないように気をつける。 ・課題や小テストに計画的に取り組む。提出期限を必ず守る。 ・定期考査に向けて学習を行う。 				

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 1 言葉と出会う ①言葉と表記 ②整った文を書く ③相手に応じた言葉遣い	予定	15~17
	第2回 1 言葉と出会う ④わかりやすい文を書く ⑤文のつなぎ方 ⑥お礼状の書き方	予定	14
後 期	第3回 1 言葉と出会う ⑦実践トレーニング 2 伝える、伝え合う ①自己紹介・他己紹介 ②言葉のストレッチ体操	予定	8~10
	第4回 2 伝える、伝え合う ③絵や写真を見て書く ④マイニュース記事を書く	予定	12
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	論理国語
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライ）		単位数 2
使用教科書	高等学校 標準 論理国語		出版社 第一学習社
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉が持つ価値への認識を高めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方について理解を深め、適切に使うことができる。 ・文章に含まれる情報の扱い方について理解を深め、適切に使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・授業ファイル ・小テスト
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。 ・「読むこと」について、文章の構造や内容の把握、批判的解釈、書き手の意図や関連する資料を踏まえた解釈、考えの形成・共有を適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・授業ファイル ・定期考査 ・課題
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深めようとする。 ・読書に親しみ、自己を向上させようとする。 ・我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・授業ファイル ・課題 ・自己評価
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な教材やタブレットを忘れずに準備をする。 ・空欄やプリントの紛失がないように気をつけて、授業ファイルを管理する。 ・課題に計画的に取り組み、提出期限を守る。 ・指示をよく聞き、主体的に「読む」、「書く」に取り組む。 ・不明な箇所や疑問点は、積極的に質問する。 ・定期考査に向けて学習を行う。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数		
前期	第1回	【新しい発見】 ・「進化が導き出した答え」（稲垣栄洋） ・「新しい地球観」（毛利衛） 【言葉と文化】 ・「数え方で磨く日本語」（飯田朝子）	予定	17
	第2回	【生活の中の表現】 ・「情けは人の……」（俵万智） ・「犬も歩けば棒に当たる」（阿刀田高）	予定	14
後期	第3回	【人間と文化】 ・「バラと通貨はどう違う？」（浜矩子） ・「ヒトはなぜヒトになったか」（長谷川真理子）	予定	11
	第4回	【自己と社会】 ・「鏡としての他者」 ・「共同性の幻想」	予定	9
備考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	国語	科目名	文学国語
学年(コース)	第2学年（選択）		単位数 2
使用教科書	文学国語		出版社 大修館書店
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ・言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。 		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。 ・文学的な言葉の特徴について理解を深め、語彙を豊かにし、適切に使うことができる。 ・ものの見方や感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・授業ファイル ・小テスト ・定期考査 ・課題
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。 ・「読むこと」について、構造や内容の把握、多様な解釈、他作品との比較・考察、考えの形成・共有を適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・授業ファイル ・定期考査 ・課題
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」について、題材の設定、情報の収集、内容・構成の検討、考えの形成と記述、推敲や共有を適切に行うことができる。 ・「読むこと」について、構造や内容の把握、多様な解釈、他作品との比較・考察、考えの形成・共有を適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・授業ファイル ・定期考査 ・課題
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が持つ価値への認識を深めようとする。 ・読書に親しみ、自己を向上させようとする。 ・我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・活動状況 ・授業ファイル ・課題 ・自己評価
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な教材やタブレットを忘れずに準備をする。 ・空欄やプリントの紛失がないように気をつけて、授業ファイルを管理する。 ・課題に計画的に取り組み、提出期限を守る。 ・指示をよく聞き、主体的に「読む」、「書く」に取り組む。 ・不明な箇所や疑問点は、積極的に質問する。 ・定期考査に向けて学習を行う。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数		
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・「十八歳の選択」（朝井リョウ） ・「山月記」（中島敦） 	予定	16
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・「旅する本」（石田衣良） ・「山椒魚」（井伏鱒二） 	予定	15
後期	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・「ころも」（夏目漱石） 	予定	9
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・「巨人の接待」（小川洋子） ・「美神」（三島由紀夫） 	予定	11
備考				

授業の概要及び年間指導計画 (シラバス)

教科名	地理・歴史	科目名	日本史探究
学年(コース)	第2学年 (普通コース)		単位数 2単位
使用教科書	精選日本史探究		出版社 実教出版
目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・わが国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料からわが国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	・学習プリントの取り組み ・小テストの成績 ・定期考査の成績
	技能	・わが国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	・学習プリントの取り組み ・定期考査の成績 (資料読解や論述問題など)
	思考判断表現	・わが国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	・授業に対する姿勢 ・忘れ物 (タブレットの充電を含む) ・課題の提出
	主体的に学習に取り組む態度		
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、授業を積極的な姿勢で受ける心構えを持ちましょう。教材を忘れることが無いように、前もって準備をしておこう。 ・内容に疑問点が出てきたら、歴史に対する興味や関心が出てきている証拠なので、その解決のために遠慮なく質問したり、自分で調べてみたりしましょう。 ・課題やプリントは必ず提出期限日を守って提出すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1編 原始・古代の日本と東アジア 第1章 国家と文化の形成 (1) 列島に暮らしはじめた人々 (2) 農耕がうまれる (3) クニがうまれる (4) ヤマト政権の形成 (5) 倭の五王と氏姓制度 第2章 古代国家の形成 (6) 飛鳥の朝廷 (7) 大化改新から壬申の乱へ	予定	15
	第2回 (8) 律令国家の形成 (9) 東アジアのなかの天平文化 (10) 奈良時代の政治と社会 (11) 平安時代の政治と社会 (12) 摂関政治と国風文化 (13) 摂関期の社会と経済	予定	14
後 期	第2編 中世の日本と社会 第3章 中世社会の成立 (14) 院政と中世荘園 (15) 奥州藤原氏と平氏 (16) 治承・寿永の乱と鎌倉幕府 (17) 承久の乱と公武関係 (18) 地頭・御家人と荘園制の変質	予定	8
	第4回 (19) 鎌倉時代の経済・産業と自然環境 (20) モンゴル襲来と日宋・日元交流 (21) 社会の変動と鎌倉幕府の滅亡 第4章 中世社会の展開 (22) 南北朝の内乱 (23) 足利義満と室町幕府 (24) 東アジアの海をゆきかう人々 (25) 惣村と一揆	予定	8
備 考	「涵養 (かんよう)」とは? → 水が自然に染みこむように、無理をしないでゆっくりと養い育てること。		

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	公民	科目名	公共
学年(コース)	第1～3学年（普通・夢トライコース）	単位数	2
使用教科書	高等学校 公共 これからの社会について考える	出版社	数研出版
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸問題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付ける。 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としてのあり方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 		
	項目	趣 旨	評価方法
評 価 の 観 点	知 識	<ul style="list-style-type: none"> 産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解する。 市場経済のメカニズムや各種経済指標、金融の仕組み等を通して各種経済指標の動向を読み解いたり、経済状況に応じて適切な手段の提示方法について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 小テスト 課題の提出状況 定期考査
	技 能		
	思 考 判 断 表 現	<ul style="list-style-type: none"> 需給曲線を使った価格変動の条件や、GDPと豊かさの関連性を多面的・多角的に考察し、表現する。 経済のグローバル化と相互依存関係の関連性や現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容を発言や発表などによって表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 発問に対する答え 小テスト（資料読みとり） 定期考査
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの日常生活が国際社会と不可分であることや、格差のある国際社会でその解決や克服方法などを学習上の課題とし、主体的に主題や問いを設け、考察、構想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 授業プリント 発問に対する答え 課題の提出状況

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・「公共」は、わたしたちが自立した主体としてよりよい社会形成に参画するとともに、持続可能な社会づくりの主体になるために学ぶ科目です。
- ・授業では、単に答えを求めるだけでなく、経済に関する内容と関連付けながら主題学習として問いを追究しその解決に至ることが重要になります。そのためには、日々の生活で新聞やニュースを参考にしながら、自分なりの疑問や意見を持ち、それを他者と協働しながら育てていくことが大切になります。

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業の変化 第2節 市場経済のしくみと金融	予定	16
	第2回	第5章 経済活動を行う私たち 第3節 財政と社会保障 第4節 国際経済の動向と課題 2 戦後の国際経済体制	予定	12
後 期	第3回	第5章 経済活動を行う私たち 第4節 国際経済の動向と課題 3 グローバル化と現代の国際経済 ～5 南北問題とその課題 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	予定	11
	第4回	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2節 現代の諸課題と倫理	予定	10
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライコース）		単位数 4
使用教科書	新高校の数学Ⅱ		出版社 数研出版
目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 課題の取組状況 定期考査の成績
	技能		
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 課題の取組状況 定期考査の成績
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 授業ファイル 課題の提出状況 振り返りシート 	

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・復習を積極的に行い、ノートをきちんと整理すること。
- ・授業中は「聞く」「考える」「書く（解く、写す）」のメリハリをつけること。
- ・演習問題には積極的に取り組むこと。
- ・与えられた課題は提出期限を厳守すること。
- ・定期考査などの受験後は、間違えたところを訂正し、理解を深めること。

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 第1章 複素数と方程式	予定	32
	第2回 第2章 図形と方程式	予定	28
後 期	第3回 第3章 三角関数	予定	18
	第4回 第4章 指数関数と対数関数 第5章 微分法と積分法 第1節 微分法	予定	23
備 考	第4回後 第5章 微分法と積分法 第2節 積分法		

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	化学基礎
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	高等学校 化学基礎		出版社 第一学習社
目 標	物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
	項目	趣 旨	評価方法
評 価 の 観 点	知 識	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	単元テスト (小テスト) 定期考査 課題
	技 能		
	思 考 判 断 表 現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	単元テスト (小テスト) 定期考査 課題
	主体的に 学習に 取り組む 態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	課題の提出状況 授業態度
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には積極的に参加し、自主的に探究、発言すること。 ・ 課題および提出物の期限を守ること。 ・ 観察や実験は、班で協力して安全に行うこと。 ・ 授業プリントはノートに貼って整理すること。 ・ 小テストは定期考査への取り組みとなるので、何度も学習すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	序章 化学と人間生活 第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	予定	17
	第1章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	予定	14
後 期	第1章 物質の構成 第2節 化学結合	予定	8
	第1章 物質の構成 第2節 化学結合 第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式	予定	12
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	理科	科目名	生物基礎
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	高等学校 新生物基礎		出版社 第一学習社
目 標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>		
	項目	趣 旨	評価方法
評 価 の 観 点	知 識	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	単元テスト（小テスト） 定期考査 課題
	技 能		
	思 考 判 断 表 現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	単元テスト（小テスト） 定期考査 課題
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	課題の提出状況 授業態度
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には積極的に参加し、自主的に探究、発言すること。 ・ 課題および提出物の期限を守ること。 ・ 観察や実験等は、互いに協力して安全に行うこと。 ・ 授業プリントはノートに貼って整理すること。 ・ 単元テストは定期考査への取り組みにもなるので、予習・復習を行うこと。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 第2節 生物とエネルギー	予定	15
	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA	予定	14
後 期	第2章 遺伝子とその働き 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	予定	8
	第4章 生物の多様性と生態系 第2節 生態系とその保全	予定	12
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	保健体育	科目名	体育
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライコース）		単位数 3
使用教科書	現代高等保健体育		出版社 大修館書店
目標	運動の成功体験を通じて、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けさせ、自己や仲間の課題を発見し、その解決に向けて思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える能力を育てる。		
	また、運動における競争や協働の経験を通して、公正・協力・自己の責任を果たす・参画する、一人一人の違いを認め大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって、運動に親しむ態度を育てる。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	・競技の記録表 ・ルールテスト ・実技テスト ・活動の観察
	技能	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・個人ノート ・班ノート ・競技の記録表 ・自己評価表
	思考判断表現	・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・個人ノート ・班ノート ・競技の記録表 ・自己評価表
	主体的に学習に取り組む態度	・生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保しようとしている。	・授業の取り組み ・出席状況 ・忘れ物など ・個人ノート ・自己評価表 ・活動の観察
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・各種目の楽しさや喜びを味わえるように主体的・積極的に活動し、お互いに協力し合いながら練習やゲームを行うこと。 ・健康安全に留意し、積極的に練習やゲームに取り組むこと。自己（チーム）の能力に応じて戦術や技術を設定し、課題解決のために効果的な方法を工夫して取り組むこと。 ・ねらいや計画、内容が密接に関連した班ノートを作成し、実践すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 体育理論 体づくり運動 武道・球技から選択 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・柔道)	予定	24
	第2回 武道・球技から選択 (バレーボール・バドミントン・ソフトボール・柔道) 陸上競技・ダンスから選択 (陸上競技：跳躍・投てき)	予定	15
後期	第3回 体育理論 球技 (バドミントン・バレーボール・卓球・ソフトボールから選択) 陸上競技（競走）	予定	18
	第4回 体づくり運動 体育理論 球技 (バスケットボール・サッカー・ラグビーから選択)	予定	19
備考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	保健体育	科目名	保健
学年(コース)	第 2 学年（普通・夢トライコース）	単位数	1
使用教科書	現代高等保健体育	出版社	大修館書店
目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、技能を身に付けるとともに、健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を育てる。また生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある態度を育てる。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト ・授業の取り組み ・保健ノート ・訂正ノート
	技能		
	思考判断表現	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	・定期考査 ・授業の取り組み ・保健ノート ・訂正ノート
	主体的に学習に取り組む態度	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	・授業の取り組み ・保健ノート ・訂正ノート
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習を積極的に行い、保健ノートをきちんと整理すること。 ・小テスト等は真面目に取り組むこと。 ・課題には誠実な姿勢で取り組み、提出期限を厳守すること。 ・定期考査後は、必ず訂正ノートを作成し、提出すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 3単元 生涯を通じる健康 1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶	予定	8
	第2回 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活		
後期	第3回 4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁、土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動	予定	7
	第4回 7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加		
備考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	芸術	科目名	音楽総合	
学年(コース)	第2学年（普通コース）		単位数	2
使用教科書	高校生の歌集つどい		出版社	啓隆社
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり等について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 ・個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。 ・主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 			
	項目	趣 旨	評価方法	
評価の観点	知識	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想や表現上の効果と構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果等を理解する。 ・音楽を形づくっている要素等について、音楽における働きと関わらせて理解する。 ・創意工夫を生かした表現をするために必要な、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌唱したり演奏したりする技能等を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技評価 ・小テスト等 	
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 【表】知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに表現を創意工夫している。 【鑑】知識を得たり生かしたりしながら、曲に対する評価とその根拠等を考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート等 	
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・題材に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価 ・授業態度等 	

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス

- ・音楽の“よさ”は自ら見つけようとしましょう。
- ・遠慮せず積極的に発言や記入をしましょう。
- ・歌唱や演奏など表現活動に取り組む時は“意図”をもちましょう。
- ・他人の表現は決して笑わず、尊重しましょう。
- ・楽譜には積極的に“書き込み”をしましょう。

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	歌唱 日本の歌 器楽 リズムアンサンブル	予定	16
	第2回	歌唱 日本の歌 器楽 バンドアンサンブル	予定	10
後 期	第3回	歌唱 合唱、日本の歌 鑑賞 西洋音楽	予定	10
	第4回	歌唱 合唱、日本の歌 器楽 バンドアンサンブル	予定	13
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・表記しているほか、読譜の練習などの基礎的な音楽理論や、歌唱の学習と関連した鑑賞の活動にも取り組みます。 			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	英語	科目名	英語コミュニケーションⅡ
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライコース）		単位数 3
使用教科書	All Aboard! English Communication I・II		出版社 東京書籍
目 標	<p>日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、</p> <p>1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</p> <p>5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。</p>		
	項目	趣 旨	評価方法
	知 識	<ul style="list-style-type: none"> 英文を正確に理解して、情報や根拠を見つけることができる。 学んだことを踏まえて、新たな課題を発見・解決しようとするすることができる。 学習の仕方を振り返り、改善することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト プリント等 小テスト 振り返りシート
	技 能	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、他者と協働することができる。 場面や状況に応じて適切に対応することができる。 目的に応じて工夫をしながら伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト 振り返りシート 観察
	思 考 判 断 表 現	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、他者と協働することができる。 場面や状況に応じて適切に対応することができる。 目的に応じて工夫をしながら伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト 振り返りシート 観察
主体的に 学習に 取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向けて努力を継続することができる。 自己や社会の課題解決に自ら取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 パフォーマンステスト 振り返りシート 観察 	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> 授業中に自主的に発言するなど積極的に取り組むこと。 授業で用いるプリント類をきちんと整理し、丁寧にノートに記入すること。 課題に確実に取り組み、提出期限を守ること。 定期考査後は復習テストに真剣に取り組むこと。 単語テストや音読テストなどに向けて継続的に努力すること。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 All Aboard! English Communication I Lesson 5 All Aboard! English Communication I Lesson 6 All Aboard! English Communication I Lesson 7 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	25
	第2回 All Aboard! English Communication I Lesson 8 All Aboard! English Communication I Lesson 9 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	21
後 期	第3回 All Aboard! English Communication I Lesson 10 All Aboard! English Communication II Lesson 1 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	15
	第4回 All Aboard! English Communication II Lesson 2 All Aboard! English Communication II Lesson 3 英単語・熟語テスト (VALUE1000)	予定	19
備 考			

授業の概要及び年間指導計画 (シラバス)

教科名	英語	科目名	論理表現 I
学年(コース)	第2学年 (普通・夢トライコース)	単位数	2
使用教科書	VISTA Logic and Expression I	出版社	三省堂
目標	「話すこと (やり取り)」「話すこと (発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに。論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。 外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能 (聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと) において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の活動への取り組み状況 インタビューテスト・発表 (スピーチ・プレゼンテーション)・ディベート等 ノート・ワーク・レポート等の提出物 小テスト・定期考査等のペーパーテスト
	技能	<ul style="list-style-type: none"> 場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語での確に理解したり適切に表現したりしている。 外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。 	
	思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しようとしている。 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 	
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しようとしている。 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 		

授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス
<ul style="list-style-type: none"> 間違いを恐れず、積極的に表現し、発表すること。 プリント類をきちんと整理し、予習・復習を行うこと。 授業で出てきた例文を暗唱し、表現の幅を広げること。 ペアワークなどの活動を通して、授業中になるべく多く話すこと。

年間授業計画

区 分	単元・題材など		授業時数	
前 期	第1回	Lesson 1~5 <ul style="list-style-type: none"> 現在形 (一般動詞/Be 動詞) 過去形 (一般動詞/Be 動詞) 現在進行形/過去進行形 未来表現 (will/be going to~) 現在完了形 	予定	14
	第2回	Lesson 6~8 <ul style="list-style-type: none"> 現在完了形/現在完了進行形 比較級/最上級/as...as~ 助動詞 (can/may) 	予定	15
後 期	第3回	Lesson 9~12 <ul style="list-style-type: none"> 助動詞 (must/have to/should) 受動態 不定詞 (名詞的用法) /動名詞 不定詞 (形容詞的用法/副詞的用法) 	予定	11
	第4回	Lesson 13~15 <ul style="list-style-type: none"> 分詞 (現在分詞/過去分詞) 関係代名詞 仮定法 	予定	11
備 考				

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	家庭	科目名	食文化
学年(コース)	第2学年（夢トライコース）		単位数 2単位
使用教科書	食文化概論		出版社 全国調理師養成施設協会
目標	食と食文化の多様性について理解し、食についての幅広い知識や技術を身に付けるとともに、五島の郷土料理について学び、五島の魅力を伝える方法を考えることができるようになる。		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・食文化の成り立ちや日本と世界の食文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	・授業プリント ・授業、実習への参加状況 ・定期考査
	技能	・食生活の現状から食文化に関する課題を発見し、食文化の伝承と創造を担うために合理的かつ創造的に解決する力を養おうとしている。	・授業プリント ・実習などの活動への参加状況 ・課題の提出 ・定期考査
	主体的に学習に取り組む態度	・食文化の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとしている。	・授業プリント ・授業、実習への参加状況 ・課題の提出
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・実習をするときは、エプロン、三角巾が必要です。忘れないようにしてください。つめも切っておいてください。 ・実習の際は前の授業が終わったらすばやく移動し、授業に遅れないようにしてください。 ・五島の郷土料理に授業の中で触れます。自分の出身地域の郷土料理についても調べておいてください。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前 期	第1回 第1章 食と文化 第1節 食文化の成り立ち 第2節 多様な食文化 第3節 食文化の共通化と国際化 《実習》 ・調理の基本 ・菜園管理	予定	15
	第2回 第2章 日本の食文化 第1節 日本の食文化史 《実習》 ・五島の食材について知る ・菜園管理	予定	14
後 期	第3回 第2章 日本の食文化 第2節 日本料理の食文化 第3節 行事食と郷土料理 《実習》 ・五島の食材を使った料理 ・五島、岐宿の郷土料理 ・日常食の調理 ・菜園管理	予定	8
	第4回 第3章 世界の食文化 第1節 西洋料理の食文化 第2節 中国料理と食文化 第3節 その他の国の料理の食文化 《実習》 ・五島の食材を使った料理を考える ・日常食の調理 ・菜園管理	予定	11
備 考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	商業	科目名	ビジネス基礎
学年(コース)	第2学年（普通・夢トライコース）		単位数 2
使用教科書	ビジネス基礎		出版社 TAC 出版
目標	<p>ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力と次のとおりに育成する。</p> <p>(1) 実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて解決する力を養う。</p>		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、実社会のビジネス活動に照らし合わせて、その役割を理解することができる。	・定期考査 ・小テスト ・課題
	技能	・学んだ知識と技術をビジネスにおいてどのように活用すべきかを適切に判断し、的確に表現できる。	・定期考査 ・ワークシート ・課題
	主体的に学習に取り組む態度	・自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員としての役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に取り組もうとしている。	・ワークシート ・小テスト ・課題 ・授業への取り組み
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業はしっかり顔を上げて聞き、内容を理解できるよう積極的に取り組もう。 ・ビジネス社会を担う一員になるという意識を持ち、卒業後の自分自身を思い浮かべながら取り組もう。 ・計算用具（電卓）やワープロソフトについての基本技能を習得します。その技能をどのように活用できるかを考えながら練習に励みましょう。考えながら練習することは、事務処理能力をアップさせることにつながります。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 第1章 商業の学習とビジネス 第2章 ビジネスとコミュニケーション 情報機器の扱い方について（タッチタイピングなど）	予定	18
	第2回 第4章 ビジネスと売買取引	予定	15
後期	第3回 第3章 経済と流通	予定	14
	第4回 第5章 企業の活動 第6章 身近な地域のビジネス	予定	13
備考			

授業の概要及び年間指導計画（シラバス）

教科名	商業	科目名	情報処理
学年(コース)	第2学年（選択）		単位数 2
使用教科書	情報処理		出版社 実教出版
目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要なソフトウェアを活用する技術を身に付ける。</p> <p>また、企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて解決する力を養う。</p>		
評価の観点	項目	趣 旨	評価方法
	知識	・情報の活用に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、情報を処理し伝達するための資料作りができる。	・定期考査 ・ワークシート ・課題 ・小テスト
	技能		
	思考判断表現	・ビジネス社会における情報の意義や役割を理解し、それを資料作りや資料の分析に活用することで、課題を発見しその解決に向けて考察することができる。	・定期考査 ・ワークシート ・課題 ・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	・ソフトウェアを活用した資料作成の方法と、企業として情報を適切に扱うということを積極的に学ぼうとしている。	・ワークシート ・課題 ・授業への取り組み	
授業を受けるにあたっての注意事項及びアドバイス			
<ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞く時はしっかり顔を上げて聞き、内容を理解する努力をしよう。 ・実習課題に積極的に取り組み、必ず提出すること。ソフトウェア活用のための技術を身につけよう。 ・基本的なソフトウェアの活用ができるようになると、ビジネス社会で大いに役立ちます。積極的に学びましょう。 			

年間授業計画

区 分	単元・題材など	授業時数	
前期	第1回 第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 第4章 ビジネス文書の作成	予定	18
	第2回 第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成	予定	15
後期	第3回 第1章 企業活動と情報処理 第3章 情報の集計と分析 3節 グラフの作成 5節 問題の発見と解決の方法	予定	13
	第4回 第3章 情報の集計と分析 4節 情報の整列・検索・抽出 第5章 プレゼンテーション	予定	13
備考			